



知恵と工夫で 暮らしやすい 豊かな町を目指す

道東・オホーツクに位置し農林業を基幹産業とする美幌町。人口の減少や地域経済の停滞など道内の多くの市町村が抱える問題に対し、同町では豊かな森林資源を活かした地域振興策や安心して出産・子育てができる環境づくりによって魅力ある町づくりを進めています。



また、町内の歯医者さんが考案したフルーツほおづきのトリュフが人気商品となるなど町民パワーにも目を見張るものが。そんな美幌町のちょっとイニニュースをお届けします。

新特産品

フルーツほおづきで町と農家を元気に —トリュフチョコレート「オーロラの雫」

美幌町内の歯科医師・青山和司さんは町と町の農業の活性化を考え、地元農家が栽培する食用のフルーツほおづきを使ったトリュフチョコレート「オーロラの雫」を商品化し昨年10月に販売を開始。今では首都圏からの問い合わせが毎日あるほどの人気スイーツとなっています。

青山さんがフルーツほおづきを初めて目にしたのは医学部の大学院を卒業してアメリカ・ニューヨークに留学していた時。その後、フルーツほおづきが日本でまだ出回っていないこと、血中の超悪玉コレステ



△フルーツほおづきのトリュフを考案した青山和司さん

ロールを25%下げる効果があるなど健康にいいことがわかり、8年ほど前から美幌町の農家をお願いして作り始めました。

最初はそのままの姿で販売していましたが、知名度がなく、普通のほおづきと勘違いされることもあって売れ行きは今一つ。そこで付加価値が付き、日持ちするトリュフにすることを考え、横浜から一流パティシエに来てもらい2年前から商品化に着手。フルーツほおづきを浸ける洋酒や表面を覆うチョコレートを何種類も試しながら完成させ、箱もすぐに手にとってもらえるように宝石箱をイメージしてデザインしました。

フルーツほおづきのトリュフはほおづきの爽やかさとチョコのまろやかさが一体となった絶妙の味わい。他に美幌ワインやグリーンレーズンのトリュフなどと組み合わせ、女満別空港などで販売していますが、今ではすぐに売り切れるほどの人気商品。

1日5、6件の問い合わせがあるそうで、大手のインターネットショップやデパートからも販売を打診されるほど。

「今後は生産量を増やし、トリュフに限らず美幌の農産物を2次加工した商品を考えていきたいですね」と青山さん。町と町内の農家を元気にするために、青山さんの挑戦はまだまだ続きそうです。



△鮮やかな赤い箱に収められた「オーロラの雫」。右から2番目と4番目がフルーツほおづきのトリュフ

住まい

町産森林認証材を使った住宅に助成

一美幌町産材活用住宅助成事業



△地元産のカラマツ材を使って建築中の住宅

△地元産のカラマツ材を使って建築中の住宅

森林・林産業の持続的な発展と地域経済の活性化を目的に、昨年9月から始まったのが「美幌町産材活用住宅助成事業」。これは環境や経済に配慮して適切に管理されている森林を示す「F S C 認証」を受けた町内産の木材を使い、F S C 認証材を扱う資格を持つ町内工務店の施工で新築・増改築を行う建築主に対し、その費用を最大75万円まで助成するもの。前年度は3戸の利用実績があり、町内外問わず多くの林業・住宅関係者の関心を集めました。「F S C 認証の地元森林から生産された木材を使ってもらえれば、二酸化炭素の排出抑制や吸着・固定につながるの環境にいいですし、地元工務店が施工することで経済も地域内で循環することになります。また、建築主は履歴がはっきりしているの品質の良い木材で安く住宅を建てられるというメリットがあります」と同町経済部耕地林務グループの澤島雅俊主幹。今年度は、この事業を本格的に普及させる1年と位置付けて、前年度実績に10戸上積みした13戸の利用を目標とします。



△美幌町経済部耕地林務グループ 澤島雅俊耕地林務主幹

救急

消防署へ事前登録し出産の不安を解消

一妊婦エントリーネット 119

妊婦さんに少しでも出産への不安を解消してもらおうと、美幌消防署では昨年10月から「妊婦エントリーネット119」をスタート。自宅の住所やかかりつけの病院、出産予定日などを事前登録することによって、緊急時に医師からの適切な指示を得ながら速やかに病院へ搬送できるように考えたシステムです。

同町では年間100人前後の赤ちゃんが誕生していますが、町内には産婦人科はなく、妊婦さんは北見市や網走市の病院に通っているのが現状です。「妊婦エントリーネット119」はそれに危機感を持った土谷耕治町長が作ったシステムで、妊婦さんからは「登録していると安心感がある」と好評。2月21日時点で28名が登録しています。

実際に救急搬送したことも2回あったそうですが、あらかじめ自宅の地図を提出してもらっているので現場へ向かうのが早く、かかりつけの担当医とのコンタクトもすぐに取れるので、搬送中の処置も適切に行えたとのこと。

同消防署の池野本聖消防司令補は「救急出動で現場がすぐにわかるのが一番の利点。ぜひ町内の妊婦の方全員に利用してもらいたいですね。里帰り出産の方も登録可能です」と話しています。



△妊婦さんを始め町民の命を守る美幌消防署救急隊

学び

地道な努力重ねて来館者アップ

一美幌町立図書館



△月2回行われる「絵本とあそび！」は、毎回10組以上の参加者を数える人気行事

インターネットの普及で活字離れが進んでいると言われる中、美幌町図書館では各種行事の充実やボランティアとの連携など地道な努力が実を結び、来館者数や貸出冊数が好調に推移しています。

行事は、絵本の読み聞かせや手遊びなどを通じて親子がふれあう「絵本とあそび!」、本の読み聞かせと簡単な工作を行う「おはなしと工作のひろば」といった小さい子供向けから、日本の古典文学に親しむ「古典文学講座」などシニアを対象としたものまで行い、幅広い年齢層をカバー。映画会や学校・サークルの芸術作品等を展示するギャラリーも好評です。

これらの行事を支えるボランティアの協力も見逃せません。特に絵本の汚れを拭いたり、除籍本にシールを貼るなど細かい作業を手伝ってもらう月1回の図書館ボランティアの日は、毎回楽しみに来る人も少なくないそうです。

「もっと高齢者や障がい者が気軽に来もらえる図書館を目指していきたいですね」と語る坂下勝明館長。今後、町民にとってさらに身近な図書館となりそうです。